

医科大どおり

2021

第26巻第3号

冬

CONTENTS

- 摂食・嚥下センター紹介
- 研修医・指導医紹介
- コロナ禍での感染制御室の1日
- はじめまして
- 病院病理部紹介
- 私の好きな風景
- スペシャリスト紹介 上級臨床培養士
- 「白鳥と戯れせむ...」
- お知らせ



雪の日の金沢医科大学病院全景

病院の理念

私たちは「生命への畏敬」を医療活動の原点として
次のような病院を目指します

- 患者さん中心の安全で質の高い医療を提供します。
- 人間性豊かで有能な医療人を育成します。
- 新しい医療の研究・開発を推進します。
- 地域の医療機関と協力し地域の医療福祉の向上に貢献します。

摂食・嚥下センター紹介

摂食・嚥下センターの概要

疾病からの早期回復、治療後の速やかな在宅への移行には早期の食事の摂取や肺炎等の合併症の予防は重要です。また、高齢化の進む地域医療においても、健康寿命を延ばし、在宅生活を可能な限り延長するためには嚥下障害の予防、早期対策、治療は急務であり、当院にはその役割を担う責務があると考えます。院内のみならず地域における摂食・嚥下リハビリテーションの重要性が増してきているため、当院では令和2年8月に多職種チームによる高度な嚥下に対する専門的治療を提供する「摂食・嚥下センター」が設立されました。

今後、嚥下障害の患者さんが最後まで食を楽しむための医療を目指したいと考えます。

職種チーム編成

- 頭頸部外科
- 耳鼻咽喉科
- リハビリテーション科
- 高齢医学科
- 歯科口腔外科

- 摂食嚥下認定看護師
- 言語聴覚士
- 管理栄養士
- 薬剤師
- 歯科衛生士



摂食・嚥下センター集合写真

摂食・嚥下センター設立に係る記念講演について

令和2年10月31日(土) 金沢医科大学北辰講堂にて摂食・嚥下センター設置に係る記念講演会が開催されました。公立能登病院歯科口腔科部長の長谷 剛士先生により「摂食嚥下障害の関わり方 ～その背景と対応の論点～」と題して、今まで取り組んでこられた嚥下障害における医療と食支援の在り方についての講演がありました。超高齢社会を迎え嚥下障害の患者数は今後ますます増えていくと予想され、病院や地域における連携が必要不可欠です。患者さん中心の医療と介護を充実するためには当「摂食・嚥下センター」の役割は極めて大切であることを再認識しました。

(記：摂食・嚥下センター センター長 辻 裕之)

コロナ禍での感染制御室の1日

感染制御室の概要

感染制御室は、感染防止の専門資格を持つ医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師で構成されています。それぞれの職種の専門性を活かし、様々な感染防止対策に関連する業務に日々取り組んでいます。この業務に昼夜は無く、病院の稼働時間と同じく24時間365日の対応が求められます。新型コロナウイルス（コロナ）への対応も感染制御室の重要な業務の一つとなっており、多忙な状況が続いています。

コロナの対策

コロナは、重症肺炎を引き起こす怖い感染症ですが、若く健康な人では、軽い風邪あるいは無症状の人もあります。現在病院入口では、赤外線センサーの設置とスタッフが発熱や症状の有無を確認しています。これは、コロナに感染しているかもしれない人を、いち早く発見し、適切な隔離を行うためです。また、マスクの着用をすべての外来患者さんをお願いし、職員も全員マスクを着用しています。これは、すべての人がマスクを常に着用することにより、病院内での感染伝播リスクをぐっと下げることができるためです。この対応はインフルエンザや他の呼吸器感染症に対しても非常に有効です。入院患者さんには、面会制限や外出外泊の制限など、様々なご不便をおかけしておりますが、院内へのコロナの持ち込み防止対策のため、ご理解ご容赦をお願いいたします。

感染制御室スタッフが直接患者さんに接する機会は少ないですが、日々院内をラウンドし、感染防止対策の確認や指導を行うなどの業務に取り組んでおります。コロナはまだ先が見えない状況ですが、マスクや手洗いなどの日常生活での感染予防が最も重要です。病院外来には今冬の感染防止対策のためのポスター掲示も行っておりますので、是非ご一読いただきますようお願いいたします。



感染制御室スタッフ

(記：感染制御室 課長 野田洋子)

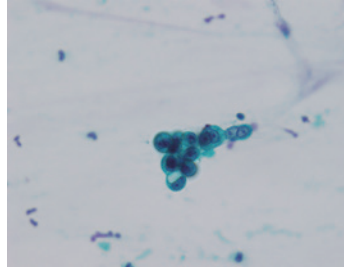
病院病理部紹介

病院病理部の概要

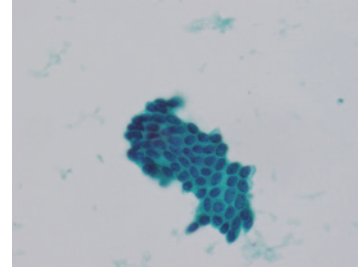
私たちは、頭から足の先までの全身から採取された検体について、悪性腫瘍（がん）や良性腫瘍、感染症、治療の効果などを病理学的に診断しています。

診断は大きく組織診断と細胞診断に分けられます。組織診断は、内視鏡で採取された胃や大腸生検、皮膚のできものや手術で採取された検体などを固定して、

パラフィンブロック（組織を蝋で固めたもの）を作ります。それを4 μ m（1000分の4mm）の厚さに薄切して薄いガラスに貼り付けてHE染色をし、染まったものを顕微鏡で100～400倍ぐらいに拡大して見て診断します。細胞診断は、痰や尿、病巣をブラシで擦ったものや注射器で刺して得られた検体などで標本を作製し、パパニコロウ染色をし、顕微鏡で拡大して見て診断します。他に、遺伝子検査や電子顕微鏡検査も行っています。



腺系悪性細胞集塊



良性腺細胞集塊

病理医と臨床検査技師のチーム

病院病理部は、病理医6名と臨床検査技師10名、事務員1名のチームです。診断は病理認定医の資格を持った医師が診断しています。臨床検査技師は、組織検体や細胞診検体のプレパラートの作製や、診断に必要な様々な染色や検査を行っています。細胞検査士の資格を持つ技師は細胞診のプレパラートを顕微鏡で見て判断し、病理医の診断の補助をしています。医療安全を守りながら、質の高い診断と検査を皆さまにご提供できますよう、日々頑張っています。

なかなか皆さまのお目にかかる機会のない部署ですが、縁の下で皆様の医療を支えている重要な部署のひとつと思っています。

ちょっと自慢！

病院病理部は3階にあって窓から日本海が見えます。他の部屋からは少しですが白山も見えます。四季が感じられる、なかなかの癒しポイントです。



病理検査室から見える白山



病院病理部集合写真

(記：病院病理部 技師長 寺内 利恵)

スペシャリスト紹介

上級臨床培養士

上級臨床培養士とは

再生医療は、失われた組織の回復だけでなく、がん治療にも応用が広がっています。上級臨床培養士は、再生医療に提供される細胞の製造を基礎から応用まで理解し、深い倫理性をもって、これを指導できる細胞培養技術者です。再生医療が高度化していく中で、高い専門性が求められます。

プロフィール

下平滋隆教授の再生医療学講座に入職後、再生医療センターで樹状細胞ワクチンの製造と品質検査に従事しています。また、再生医療を審査する特定認定再生医療等委員会の委員を務めており、細胞培養の見識を持つ立場から、再生医療の提供に貢献しています。

上級臨床培養士の役割

患者さんに提供される細胞は、再生医療センターにある無菌施設で製造され、高品質の細胞を作るために、その細胞の品質と安全性を確認する検査を実施しています。細胞の品質は患者さん毎に異なるため、優れた培養技術の開発にも取り組んでいます。

資格取得のための努力、資格取得のための条件など

上級臨床培養士の取得には、国が認める施設で臨床培養士として3年以上の経験が必要です。試験に合格すると日本再生医療学会の認定が受けられます。高い専門性を維持するため更新制であり、最新の知識と技術の習得に努めています。

今後の目標

進歩性のある技術を取り入れながら、後継の育成に取り組むとともに、患者さんが安全に受けられる再生医療の普及に貢献したいと考えています。



上級臨床培養士



再生医療



無菌施設



日本再生医療学会の認定

(記：再生医療センター 助教 小屋 照継)

お知らせ

ユニフォーム2色制の導入について

看護部では、患者さんの尊厳を守り、安全で質の高い看護を持続的に提供するために、看護師自身も健康で安全に働き続けられる職場環境を目指しています。

看護師の働き方改革の一環として令和2年10月19日からユニフォーム2色制を導入しました。

ユニフォームの色は、日勤の8:45～21:15はホワイト、夜勤の20:45～9:15はブルーです。

患者さんや医師をはじめ他の職種の方には、「勤務者が一目でわかり、声をかけやすくなった。」と言われていました。看護師は日勤者と夜勤者ともに、それぞれの勤務帯で責任を持って対応しています。どうぞ遠慮なく声をかけてください。

職場では、前勤務者へ「お疲れ様」のねぎらいの言葉もかけ、良好な組織風土につながっています。

日勤と夜勤の看護師が分かるように
ユニフォームを2色制にしています

日勤 8:45～21:15

夜勤 20:45～9:15



遠慮なく声を
かけてください



日勤は
お任せください



夜も安全を
守ります



夜勤は
お任せください

(記：看護部 副部長 東 和美)

新型コロナウイルス感染症対策にかかる寄付への御礼について

令和2年9月～令和2年12月23日 現在までのご支援

法人・団体 順不同 敬称略

- (株)ヤクルト北陸
- ハイテクス工業(株)
- (株)ハーバー研究所
- (株)HプラスBライフサイエンス
- 尙北前船
- ネットワンシステムズ(株)
- Yahoo!基金
- (株)ダスキンヘルスケア北陸
- (株)セーフティ
- (株)福井銀行
- 米沢電気工事(株)
- ひまわりポンポン

個人

- 斉藤りえ 様

新型コロナウイルス感染症の拡大が続く中、多くの皆様より、マスクなどの医療物資のほか食品・飲料など温かいご支援をいただき、スタッフ一同心より感謝申し上げます。

ご寄付いただいた医療資源や寄付金などは本院の医療活動に有効活用させていただきます。

新型コロナウイルス感染症を取り巻く環境は、依然として予断を許さない状況ですが、引き続き全職員が一丸となって、安心・安全な医療の提供に努めてまいります。

※同意をいただいた企業・個人のご芳名のみを掲載しています。この他にも多くの皆様からご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。

(記：病院長 伊藤 透)

研修医・指導医紹介

研修医紹介



2年次初期臨床研修医

三ノ宮 優太(さんのみや ゆうた)

富山県出身

【医師を志したきっかけ】

8歳の頃、祖父が脳梗塞で倒れました。幼い私は、病気を深く考えずに、祖父がそれまでの日常に早く戻ってくるだろうと思っていました。その後、祖父は介護が必要となり、12年間、定期的に通院しながら過ごすことになりました。病気とは一度で治る

ものでなく、付き合っていくものなのか、とショックを受けたことを覚えています。しかし、その中で漠然と、他人の人生に関わりを持って、病気や人に向き合っている医師に真摯さを感じ、憧れを持ったことは確かです。その憧れを大切に、患者さんに対して、誠実に向き合いたいと思っています。

【臨床研修中に印象に残ったエピソード】

研修医になった頃、夕食中に、珍しく母から電話がありました。父の様子がおかしい。今までにない痛みを訴え、吐いていると。父は60代後半で、高血圧や脂質異常症を基礎疾患に持つ酒飲みです。電話を聞いてすぐに向かいましたが、正直かなり焦っていました。心筋梗塞じゃないかと。診断は腸炎であり、命に別状はありませんでした。その時に学ぶべきことは沢山あると、反省したことを覚えています。『言うは易く、行うは難し』指導医の山田壮亮先生に頂いた言葉です。口先だけの人にならぬよう、少しずつ成長していきたいと思っています。

指導医紹介



病理診断科科长

山田 壮亮(やまだ そうすけ)

福岡県出身

【三ノ宮優太先生の指導医として】

「医師」の素養として何が必要であろうかと、不惑を超えた男が、ふと考えさせられる。患者さんの身体と心の状態に思いを巡らせたとき、やはり、大事なものは知力だけではなく、「元気」も含めた気力であろうと強く信ずる。そして、いつの時代にも、少しはみ出た「元気印」が居るものです。わたくし自身もそういう男でありたい。。。わたくしは自信をもって、研修医三ノ宮優太先生を「元気医」として、ご推薦申し上げます。

【後進の指導について】

「後進の指導」、これは正に「子育て」にも大いに通ずると、私は常々考えているのであります。

真っ直ぐに、余計なことを考えずに、ぶつかっていく。一生懸命に愛情をかけ、一生懸命に怒り、笑い、時には大人げない幼稚なところも見せながら。ただ、子供から、生きる姿勢というものを、背中を、常に見られているんだ、という意識を忘れずに。。。教えることは教えられること、自らを律し、しかし孤独に酒を食らふ。今夜も呑みませう。



はじめまして!!

刈本さん

●おとうさん

弘樹さん

●おかあさん

千嘉さん

●赤ちゃん

羽美(うみ)ちゃん

令和2年11月3日生

3,400g 女の子

過去に2人、医科大で出産して、少し子育てが落ち着いてきて、自分も夢を叶えようと自営業をスタートしようとしていた頃に3人目の妊娠が分かりました。コロナウイルスの流行と共に自営業の道は険しく、辛いことも多かったのですが、お腹にいて、一番近くにいて支えてくれたのはこの子でした。

一旦、子育てに集中して、仕事はまた次のタイミングで頑張ろうと思わせてくれました。立ち合い出産が出来ず、不安でいっぱいでしたが、先生方、助産師さん、看護師さんにたくさん支えてもらい、無事出産することができ、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



私の好きな風景

走行中の車がはねた道路の雨水が、道路脇の木の枝や実にふりかかり、多数の氷柱となって美しい姿を見せてくれた。

撮影：出版メディア課 中谷 渉

病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への“説明と同意”を徹底します。
4. 高度先進医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに努めます。

患者さんの権利

当院は、医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。

- 人間としての尊厳や人権が尊重され、安全で良質な医療を公平に受けることができます。
- 病気や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べるすることができます。
- 十分な説明と、情報提供を受けたうえで、ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
- 治療のどの段階においてもセカンドオピニオン(他の医療機関の医師の意見)を求めることができます。
- 診療記録の開示を求めることができます。
- プライバシーは尊重され、個人情報には厳重に保護されます。
- 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうかご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。

患者さんへのお願い

当院は、大学病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。

- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話してください。
- 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
- 病院のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないようご配慮ください。
- 当院は教育・研修施設として医学生・看護学生等の臨床教育実習を行っておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

コラム

「白鳥と戯れせむ、、、」

病理診断科 科長/病院ニュース編集委員長 山田 壮亮

内灘に冬の気配が近づくころ、わたくしの楽しみの一つは、河北潟に沈む夕陽の美しさもさることながら、邑知潟に降り立つ白鳥の群れの雄大さである。寒さ厳しい北のシベリアから暖を求めて渡ってきてくれた「コハクチョウ」たち。悠然と羽を広げ仲間たちと声を交わす、その自然の背景と動きにじんわりと温かい気持ちになり、一人静かに、「お疲れさま」と心の声をかける。

